決算審査

第3回定例会で、決算特別委員会に付託された、平成15年度各会計決算22件について、10月12日から4日間の日程で審査を行いました。

各決算に対する主な質疑は、次のとおりです。

学校のスポーツ開放の拡大等

質疑　スポーツ開放の拡大と、開放時間の延長、冬季の体育館暖房実施と、利用者の経費負担について、どのように考えているか。

答弁　学校のスポーツ開放については、必要な施設を整備しながら拡大に努めてきたが、今後も必要な整備を行い、開放校の拡大を図るとともに、開放時間の延長や休日等の夜間開放の実施を検討してまいりたい。

また、校庭開放についても、今年4月からのあさひ小学校での実施に向け協議を進めるとともに、地域のニーズとバランスを考慮しつつ拡大に努めていきたい。

さらに体育館暖房は、昨年12月から2校で試行をすすめており、有料化も含め他都市の状況や利用者の意向を参考に検討したい。

交通事業改善策と市電の位置付け

質疑　交通事業の改善策と今後の市電の位置付けについては、どのように考えるか。

答弁　交通事業の改善策としては、修学旅行生の自主研修誘致や広告媒体の活用、職員研修による接遇向上や安全運転の徹底等により収支の改善に取り組んできたところであるが、市民の足としては、バスを含めても人口の2割程度しかカバーしていないのが実情であり、都市交通の総合的体系の基本的考え方を定める必要がある。

また、市電の活用については、市民の足としての側面、観光資源・文化遺産としての側面などを考慮しつつ、より良い手法を検討し、措置を講じていきたい。

借上市営住宅の今後の事業展開

質疑　市営住宅の直接建設方式と借上方式とのコスト比較、また借上市営住宅の今後の事業展開はどうなっているのか。

答弁　借上方式と直接建設方式を20年の期間で比較すると借上方式の方がコスト的に有利となっている。

借上方式は、民間活力の導入にも有効で、中心市街地の活性化や西部地区の空き家・空き地対策等、まちづくりへの寄与を意図した事業展開を図っていきたい。

また、今後の借上市営住宅の供給については、当面継続していくとともに、他の民間活力の利用方法や直接建設方式とを比較しながら、供給地域や戸数について検討していきたい。

今後の廃棄物処理と七五郎沢の延命化

質疑　七五郎沢廃棄物最終処分場の延命化対策を含めた今後の廃棄物処理についてはどうするのか。

答弁　七五郎沢廃棄物最終処分場の延命化については、日乃出清掃工場のダイオキシン削減のための工事や焼却炉の耐熱工事を実施してきたほか、現在、プラスチックを焼却した際の炉や大気への影響を調査中で、17年度以降、これまで燃やせないごみとしてきたプラスチックを焼却処分することを検討しているところであり、これらを含めた延命化策を早期に策定したい。

また、将来的な廃棄物処理については、収集から再資源化・中間処理および最終処理までをトータルに検討して方針を定めるよう、各種問題を整理し、市民や議会の意見を伺いながら検討していきたい。

決算採決結果

◎＝満場一致で認定
○＝賛成多数で認定

特別会計
- ○一般会計
- ○港湾事業
- ○国民健康保険事業
- ○自転車競走事業
- ◎奨学資金
- ◎水産物地方卸売市場事業
- ◎交通災害共済事業
- ◎育英資金
- ◎社会福祉施設整備資金
- ◎老人保健医療事業
- ◎在宅福祉ふれあい資金
- ◎国際交流資金
- ◎青少年芸術教育奨励資金
- ◎西部地区歴史的町並み資金
- ◎スポーツ振興資金
- ○介護保険事業

企業会計
- ◎中央卸売市場事業
- ◎病院事業
- ◎水道事業
- ◎温泉事業
- ◎公共下水道事業
- ◎交通事業

編集後記

穏やかな新春をお迎えになられましたことをお喜び申し上げます。

昨年は、函館市にとっては合併を果たし、長年の懸案の北海道新幹線着工の朗報を受け、未来への展望が拓けたのもつかの間、スマトラ沖地震による大津波で10万人を超える死者が出る大惨事がもたらされました。

昨年12月定例会は、合併後初の議会となり、多くの議員から合併後のまちづくりや諸施策についての質問・意見が出されました。

災害のない明るい社会、元気がでる地域づくりのため、全議員が一丸となっていく姿勢を感じ取っていただけたのではないでしょうか。

また、水族館に対する意見等、市民の皆様からも多くのご意見をいただいており、心から感謝申し上げます。

今年も、市議会だよりをご愛読いただきますようお願いいたします。

広報委員会